

# 福生市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)課題シート

事前資料6

## 基本目標1「いきいき・すこやか」についての課題

現行計画の方向性	社会参加・生きがいづくりを支援し、誰もが生きがいを持ち、地域社会の中で人とつながりながら、自分らしく、いきいき・すこやかに暮らせるまちを目指します。
	1 社会参加・生きがい 2 介護予防・フレイル予防

	調査結果項目	問番号
高齢者生活実態調査結果	友人の家を訪ねているかについて、「はい」が33.8%、「いいえ」が63.9%	ニーズ調査問4(13)
	趣味の有無について、「趣味あり」が63.3%、「思いつかない」が26.0%	ニーズ調査問4(17)
	生きがいの有無について、「生きがいあり」が49.3%、「思いつかない」が38.5%	ニーズ調査問4(18)
	地域活動の参加について、すべての項目で「参加していない」が5割を超えている。	ニーズ調査問5(1)
	いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加者として参加してみたいかについて、「参加したい」、「参加してもよい」が47.5%、「参加したくない」が39.5%	ニーズ調査問5(2)
	いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいかについて、「参加したくない」が57.1%と最も高く、「参加したい」「参加してもよい」が29.6%	ニーズ調査問5(3)
	現在の健康状態について、「とてもよい」、「まあよい」が67.1%、「よくない」、「あまりよくない」が28.4%	ニーズ調査問7(1)
	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることの有無について、「はい」が42.8%、「いいえ」が52.2%	ニーズ調査問7(3)
	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますかについて、「できるし、している」が52.3%、「できない」が26.1%	ニーズ調査問2(1)
	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますかについて、「できるし、している」が64.8%、「できない」が17.9%	ニーズ調査問2(2)
	15分位続けて歩いていますかについて、「できるし、している」が69.7%、「できない」が14.2%	ニーズ調査問2(3)
	転倒に対する不安について、「とても不安である」、「やや不安である」が58.1%、「あまり不安でない」、「不安でない」が37.9%	ニーズ調査問2(5)
	BMIをみると、低体重の人は7.1%、肥満の人が21.4%	ニーズ調査問3(1)
	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたかについて、「はい」が34.0%、「いいえ」が60.2%	ニーズ調査問3(2)
お茶や汁物等でむせることがありますかについて、「はい」が34.7%、「いいえ」が59.5%	ニーズ調査問3(3)	
口の渇きが気になりますかについて、「はい」が32.6%、「いいえ」が61.5%	ニーズ調査問3(4)	

### 高齢者生活実態調査概要

調査名	対象者	対象者数	有効回収数
介護予防・日常生活圏ニーズ調査	要支援・要介護の認定を受けていない65歳以上の市民の方	1,200人 (無作為抽出)	1,137通
	要支援1または要支援2の認定を受けた方	500人	
在宅介護実態調査	要介護1～5の認定を受けた在宅の方	1,000人 (無作為抽出)	539通

現状	<p><b>1 社会参加・生きがい</b></p> <p>○友人の家を訪ねているかについて、「いいえ」が6割を超えています。</p> <p>○趣味の有無について、「趣味あり」が63.3%と高く、「思いつかない」が26.0%です。</p> <p>○生きがいについて、「生きがいあり」が49.3%、「思いつかない」が38.5%となっています。</p> <p>○いきいきした地域づくりを進める活動に参加者として参加してみたいかについて、「参加してもよい」が41.0%と最も高く、次いで「参加したくない」が39.5%となっています。</p> <p>○一方、企画・運営(お世話役)として参加してみたいかについては、「参加したくない」が57.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」が27.8%となっています。</p> <p>○この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることの有無について、「はい」が42.8%、「いいえ」が52.2%となっています。</p> <p><b>2 介護予防・フレイル予防</b></p> <p>○現在の健康状態について、「まあよい」が約6割と最も高く、次いで「あまりよくない」が2割半ばとなっています。</p> <p>○階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができないが26.1%となっています。</p> <p>○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれないが17.9%となっています。</p> <p>○15分位続けて歩けないが14.2%となっています。</p> <p>○転倒に対して不安のある人は約6割となっています。</p> <p>○BMIをみると、低体重の人は7.1%。年齢が高くなるにつれ増加傾向にあります。</p> <p>○半年前に比べて固いものが食べにくくなったが34.0%となっています。</p> <p>○お茶や汁物等でむせることがある人が34.7%となっています。</p> <p>○口の渇きが気になる人は32.6%となっています。</p>
----	--

国の指針及び社会動向	<p>【第9期介護保険事業(支援)計画の基本指針(案)】</p> <p>・多様な主体によるサービスを含めた総合事業の普及・充実化について、第9期介護保険事業計画期間中に集中的に取り組むことが重要である旨追記。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行により低下した通いの場への参加率を向上させる旨を記載。</p> <p>・総合事業において、リハビリテーションの理念等を踏まえ、より質の高い取組が推進されるよう、関係団体・関係機関等を含めた協議の場において、医療や介護の専門職の関与等に関する検討を行うことについて記載。</p>
------------	---

次期計画に向けた方向性	<p><b>1 社会参加・生きがい</b></p> <p>○高齢者は家庭や地域、企業等社会の各分野において、長年にわたり蓄積された知識や経験を活かしながら、生きがいをもって生活ができるよう、ボランティアなども含めた社会参加を促進することが重要です。</p> <p>○高齢者を地域における生活支援サービスの担い手として、活用することも視野に入れた、ボランティアの養成の充実が求められます。</p> <p><b>2 介護予防・フレイル予防</b></p> <p>○生活機能が低下する前の健康な時から、個人に合わせた適切な予防を行うなど、健康寿命の延伸に向け、介護予防・重症化予防を推進していく必要があります。</p> <p>○噛む力や飲み込む力が弱くなり栄養状態が悪くなると、筋肉量が減少し身体のバランスを取る能力が低下することにより転倒の危険性が高まり、閉じこもりがちになると心身が弱体化していくという悪循環に陥りやすい等の研究結果もあることから、介護予防の推進にあたっては、運動器の機能向上の取組とともに口腔機能の向上の取組も併せて進めることが重要となります。</p>
-------------	--

## 基本目標2「あんしん生活」についての課題

現行計画の方向性	見守りや生活支援、住環境の充実を図り、誰もが住み慣れた地域で、安心して生活できるまちを目指します。	
	3 認知症の支援 4 見守り支援	5 生活支援 6 住まい・住環境の支援

高齢者生活 実態調査 結果	調査結果項目	問番号
		家族構成について、1人暮らしが31.1%、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が37.1%
	住まいについて、「持家（一戸建て）」が55.1%、「公営賃貸住宅」が15.8%、「持家（集合住宅）」が11.4%	ニーズ調査問1（4）
	物忘れが多いと感じる人が42.7%	ニーズ調査問4（1）
	自分で食品・日用品の買物をしていない人が16.1%	ニーズ調査問4（5）
	病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人について、「配偶者」が48.5%、「別居の子ども」が34.0%、「同居の子ども」が21.0%。一方、「そのような人はいない」とする人が12.1%	ニーズ調査問6（3）
	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人が8.2%	ニーズ調査問8（1）
	認知症に関する相談窓口を知っている人が21.5%	ニーズ調査問8（2）
	今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、「見守り、声かけ」が13.9%	在宅介護A票 問9
	主な介護者の方が不安を感じる介護等について、「認知症状への対応」が最も高くなっています。	在宅介護B票 問5

現状	<b>3 認知症の支援</b> ○物忘れが多いと感じる人が約4割となっています。 ○認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人が8.2%います。 ○認知症に関する相談窓口を知っている人が2割となっています。 ○主な介護者の方が不安を感じる介護等について、「認知症状への対応」が最も高くなっています。
	<b>4 見守り支援</b> ○家族構成について、1人暮らしをしている人がニーズ調査、在宅介護実態調査ともに3割となっています。 ○今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、「見守り、声かけ」が13.9%となっています。
	<b>5 生活支援</b> ○病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人について、「配偶者」が48.5%と最も高く、次いで「別居の子ども」が34.0%、「同居の子ども」が21.0%となっている一方、「そのような人はいない」とする人が12.1%います。
	<b>6 住まい・住環境の支援</b> ○住まいについて、「持家（一戸建て）」が55.1%と最も高く、次いで「公営賃貸住宅」が15.8%、「持家（集合住宅）」が11.4%となっています。

国の指針及び 社会動向	【第9期介護保険事業（支援）計画の基本指針（案）】
	・地域包括支援センターの体制整備と併せて、総合相談支援機能の活用により、認知症高齢者の家族、ヤングケアラーなど家族介護者支援に取り組むことが重要である旨を記載。 ・認知症対応型共同生活介護などの地域拠点が行う伴走型支援、認知症カフェの活動、ケアマネジャーによる仕事と介護の両立支援などの取組、ヤングケアラー問題も含めた関係機関とセンターの連携を図ることの重要性について追記。

次期計画に向けた 方向性	<b>3 認知症の支援</b> ○認知症になってもその人らしく尊厳を持ち、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、本人・家族はもちろんのこと、地域住民が認知症を正しく理解し自らの問題と捉えること、医療・介護の連携を図り、認知症の高齢者と家族を支える体制整備が求められています。
	<b>4 見守り支援</b> ○高齢者世帯が、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、高齢者の生活を見守り、リスクを軽減する支援の充実が必要となります。
	<b>5 生活支援</b> ○今後もひとり暮らし高齢者の増加が予想されており、ひとり暮らし高齢者が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続していくためには、介護保険サービスの充実のみならず、高齢者の生活に合わせた多様なサービスの整備が必要となります。
	<b>6 住まい・住環境の支援</b> ○介護や支援が必要になっても、可能な限り住み慣れた地域に住み続けることができるような住まいの確保が必要となります。また、自宅での生活が困難になった場合の「施設」への入所や、将来介護が必要になった場合に必要なサービスが提供されることが約束されている「住まい」への住み替えなど、個々の高齢者の状況やニーズに沿った選択肢を用意するため、多様な住まいを確保することが重要です。

### 基本目標3「ささえる介護」についての課題

現行計画の方向性	介護保険サービス基盤の充実を図り、介護が必要となっても、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちを目指します。
	7 介護を支える地域づくり 8 介護サービス基盤の充実

高齢者生活 実態調査 結果	今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が20.6%	在宅介護 A票 問9
	施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居を検討していない」が64.9%、「入所・入居を検討している」が19.5%	在宅介護 A票 問10
	現在、訪問診療を利用しているかについて、「利用している」が23.0%、「利用していない」が71.6%	在宅介護 A票 問12
	現在、「（住宅改修）「福祉用具貸与・購入」以外の）「介護保険サービス」を利用しているかについて、「利用している」が51.6%、「利用していない」が42.1%	在宅介護 A票 問13
	介護をするにあたって働き方の調整等をしているかについて、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら働いている」が36.8%、「特に行っていない」が29.7%、「介護のために「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている」が23.2%	在宅介護 B票 問2
	職場からどのような支援があれば両立に効果があるかについて、「制度を利用しやすい職場づくり」が22.7%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が22.2%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.6%	在宅介護 B票 問3

現状	<p><b>7 介護を支える地域づくり</b></p> <p>○介護をするにあたって働き方の調整等をしているかについて、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら働いている」が4割近く、「特に行っていない」が約3割、「介護のために「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている」が2割を超えています。</p> <p>○職場からどのような支援があれば両立に効果があるかについて、「制度を利用しやすい職場づくり」が22.7%と最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が22.2%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.6%となっています。</p>
	<p><b>8 介護サービス基盤の充実</b></p> <p>○施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居を検討している」が約2割となっています。</p> <p>○現在、訪問診療を利用している人が23.0%となっています。</p> <p>○現在、「（住宅改修）「福祉用具貸与・購入」以外の）「介護保険サービス」を利用しているかについて、「利用している」が51.6%、「利用していない」が42.1%となっています。</p>

国の指針及び 社会動向	<p>【第9期介護保険事業（支援）計画の基本指針（案）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特養のサービス見込み量について、特例入所も含め地域の実情を踏まえた適切な運用を前提とする設定が適当である旨を追記。</li> <li>・定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護等の地域密着型サービスについて、指定の事前同意等による広域利用等に係る検討について記載。</li> </ul>
----------------	--

次期計画に向けた 方向性	<p><b>7 介護を支える地域づくり</b></p> <p>○高齢者人口の増加とともに、今後、更に増え続ける認知症高齢者や医療ニーズの高い重度の要介護者が、地域で安心して暮らし続けるために、一人ひとりの状況にあったきめ細かいサービス提供が行われるよう、制度やサービスの情報提供や相談体制を充実させる必要があります。</p> <p>○介護に携わる介護者家族への負担は、精神的・肉体的な疲労が特に大きなものとなっています。在宅介護を推進する上で、家族の負担を軽減するための支援の充実及びその普及活動が求められます。</p> <p>○介護人材が不足している中で、地域包括ケアシステムを支える介護人材の確保と定着を推進するとともに、介護現場の生産性の向上に向けた取組の支援を検討していくことが必要です。</p>
	<p><b>8 介護サービス基盤の充実</b></p> <p>○今後、団塊の世代のすべてが後期高齢者となる令和7（2025）年を見据えると、介護サービスの利用者数や利用量の増加が予測されます。高齢者が住み慣れた地域で、健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、介護保険制度の持続可能性の確保や、受給環境の整備を図る必要があります。</p> <p>○処遇改善や定着促進による介護人材の確保、限られた資源で質を高めていく介護現場の生産性向上に資する取組の実施が求められます。</p> <p>○介護保険制度の趣旨やサービス事業者に関する情報などの普及・啓発や、サービス事業者への支援及び指導を行うなどサービスの質の向上に努めるとともに、低所得者に対しては、利用者負担の軽減や介護保険料の減免などにより、引き続き、介護サービスが適切に受けられる環境の整備を推進する必要があります。</p> <p>○自宅を離れても住み慣れた地域で暮らせるよう、引き続きニーズの把握と近隣市も含めた整備状況を勘案しながら整備計画を立てる必要性があります。</p>

【 事業展開 】

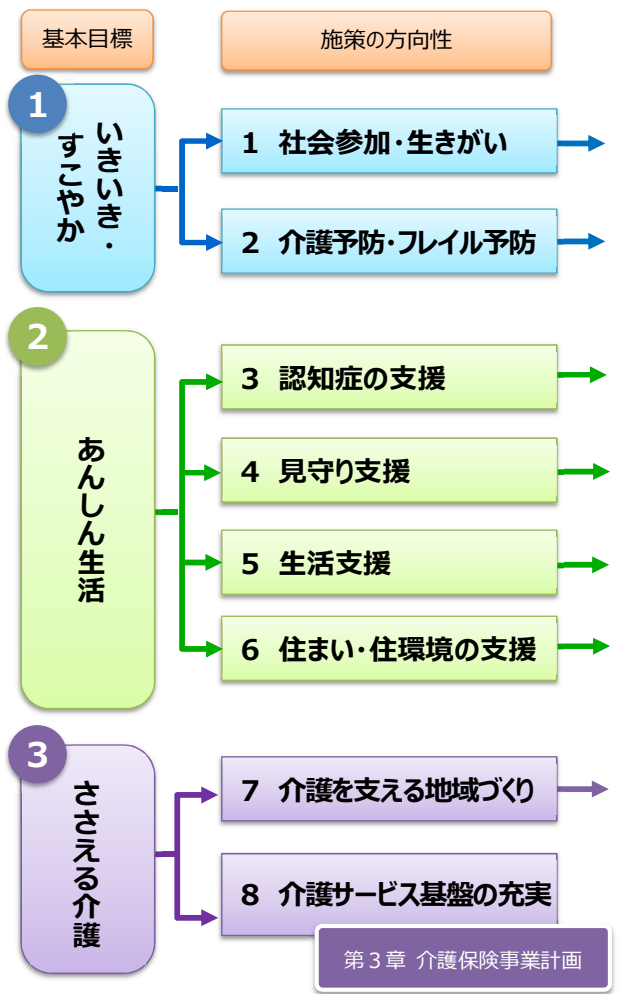
福生市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（第8期） 施策の体系

基本理念 **住み慣れた地域で、安心して、心豊かに生活するために  
～地域包括ケアシステムの推進～**



将来の姿

地域共生社会の実現



いきいき・すこやか	1 社会参加・生きがい	①生きがい活動情報の提供 ③生きがい活動支援デイサービス事業 ⑤高齢者を対象とした講座等の充実 ⑦成人対象学習講座の充実 ⑨介護サポーター事業 ⑪介護予防の集いの場への支援	②高齢者スポーツ・レクリエーション教室の開催 ④老人クラブ等への支援 ⑥高齢者のサークル活動への支援 ⑧高齢者就業相談の実施 ⑩介護予防リーダーへの活動支援 ⑫老人福祉センター機能の充実
	2 介護予防・フレイル予防	①高齢者の健康づくり支援 ③後期高齢者健康診査 ⑤「介護予防・フレイル予防」の推進 ⑦リハビリ職との連携	②特定健康診査 ④高齢者歯科健康診査 ⑥介護予防施策事業 ⑧高齢者インフルエンザ予防接種

あんしん生活	3 認知症の支援	①拠点型の認知症疾患医療センターとの連携 ②地域型の認知症疾患医療センターとの連携 ④認知症高齢者位置情報探索機器貸与事業 ⑤認知症高齢者グループホームの運営支援 ⑦認知症サポーター事業の充実 ⑨高齢者見守りキーホルダー・アイロンシール ⑪認知症初期集中支援チームとの連携	
	4 見守り支援	①安全安心なまちづくりの推進 ③訪問販売等悪質商法取引等への対応 ⑤救急代理通報システム ⑦自主防災組織への支援 ⑨自動通話録音機の貸し出し ⑪ゲートキーパー養成講座	③認知症ケアのネットワークづくり ⑥認知症総合支援事業 ⑧認知症カフェの推進 ⑩認知症家族の会への支援と連携
	5 生活支援	①訪問理美容サービス事業 ③配食サービス事業 ⑤移送サービス事業 ⑦生活支援体制整備事業 ⑨図書館資料宅配貸出事業	②交通安全教育の推進 ④救急直接通報システム ⑥住宅火災直接通報システム ⑧要配慮者(避難行動要援護者)への支援 ⑩救急医療情報キット配布
	6 住まい・住環境の支援	①高齢者用市営住宅の運営(シルバーピア) ②高齢者家具転倒防止装置設置事業 ③自立支援住宅改修給付事業 ⑤居住支援特別給付金	④生活支援ショートステイ事業 ⑥車いす専用車の貸出し ⑧福祉バス運行 ④自立支援日常生活用具給付事業

ささえる介護	7 介護を支える地域づくり	①介護サービスの情報提供 ③公的扶助・年金・手当の周知 ⑤家族介護支援事業 ⑦虐待の防止 ⑨在宅医療・介護連携推進事業	②保健福祉サービスや施設案内の充実 ④地域包括支援センター事業の展開 ⑥総合相談支援・権利擁護事業 ⑧地域ケア会議の開催 ⑩介護人材の確保・定着
	8 介護サービス基盤の充実	第3章 介護保険事業計画 2 介護保険事業サービスの展開 →54 ページ	